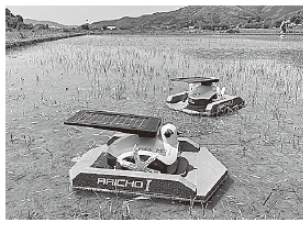


インタビュ

(株)テムザック
代表取締役社長 CEO

川久保 勇次氏

(株)テムザック(京都市上京区)は、独自の発想と技術力で、新たな実用サービスロボットを次々と生み出している。直近でも、乗れるロボット「RODEM」(ロデム)が次世代スマートモビリティとしての活用が進んでいるほか、危険作業などを代替するロボット製品群を「WORKROID」(ワークロイド)



水田の雑草抑制に貢献する「雷鳥1号」

リンクサービスを手がける新会社「ネオモビ(株)」(京都市左京区)を(株)80 & CompanyやF e



の整備・維持管理や人手不足が深刻な業界に向けて、人が行う作業を代替したり、危険作業を行ったりするロボットの開発に注力しており、それらを「ワークロイド」と称している。その一つとして、下

の管渠も走行できる。パイプライン企業と連携し、9月から現場での実証を開始する予定で、そこで得られた知見をもとに製品化に向けて取り組みを進めていく。

は、高精度な群れ制御技術といったソフトウェアだけでなく、ハードウェアもしっかりと構築できていることにより、その技術力を活かして鹿島建設(株)と建築ワークロイド「システム天井施工ロボット」の開発を進めている。複数のロボットが相互に通信しながら位置情報を共有・指示し、吊りボルト、Tバー、天井ボードの運搬・施工を行うことができる。これまでに建設現場での検証などを実施し、建設現場での本格導入に向けて開発を進めている。

「ワークロイド」の製品群を拡大

インフラの強靱化に貢献

「まずはロデムの取り組みについて伺います。」

l i x i a(株)との共同出資で設立した。ネオモビでは、ロデムのレンタルや販売に加えて、企業・自治体のニーズに合わせて新たな事業サービスの構築も行っており、6月にはネオモビを介して東京ミッドタウン八重洲のモビリティ事業「まちモビ」にロデムが導入された。

水道管の点検作業を行う多脚式のロボットの開発を進めている。現在、下水道管内の点検・調査作業の省人化に向けて様々な機器が開発されているが、その多くがタイヤ走行式で、走破性能に課題がある。当社は多脚式を採用することで、堆積物や段差などを乗り越えることもでき、異なる直径

農業ワークロイドをはじめとした先端技術の活用を目指している。22年12月には宮崎県延岡市や北浦町農業公社と連携協定を締結し、23年4月には宮崎県延岡市に「アグリ研究所」を開設した。現在、最先端のロボット技術を活用した米づくりや米粉の生産に関する研究開発を行っており、ドロ

は、高精度な群れ制御技術といったソフトウェアだけでなく、ハードウェアもしっかりと構築できていることにより、その技術力を活かして鹿島建設(株)と建築ワークロイド「システム天井施工ロボット」の開発を進めている。複数のロボットが相互に通信しながら位置情報を共有・指示し、吊りボルト、Tバー、天井ボードの運搬・施工を行うことができる。これまでに建設現場での検証などを実施し、建設現場での本格導入に向けて開発を進めている。

川久保 車体の後方から乗る設計を施した「乗れるロボット」で、直近では次世代スマートモビリティとして観光用途などでも活用も進んでおり、2022年9月には、ロデムを活用したシエ

ワークロイドについて。

ワークロイドについて。

そのほかの取り組みとして、8月に(株)松本(長崎市矢上町)と販売業務委託契約を締結した。松本は、DX事業の推進などを通じて多数の顧客と接点を持ち、今後、当社が開発したロボットを提案するほか、顧客から新規ロボットのオーダーメイド開発の要望を受

け、当社とその実現に向けた方法を検討する。——今後の事業の方向性について。

川久保 近年、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少により様々な業種・業界で人手不足が課題となっているが、コ

川久保 当社の強み

川久保 当社の強み

そのほかの取り組みとして、8月に(株)松本(長崎市矢上町)と販売業務委託契約を締結した。松本は、DX事業の推進などを通じて多数の顧客と接点を持ち、今後、当社が開発したロボットを提案するほか、顧客から新規ロボットのオーダーメイド開発の要望を受

聞き手・副編集長 浮島哲志

川久保 社会インフラ

川久保 社会インフラ

川久保 社会インフラ

川久保 社会インフラ